

# 電気自動車普及協議会 活動計画

2010年6月29日

## なぜ、今「電気自動車普及協議会」設立なのか？

**背景** 既存自動車メーカーが電気自動車に社運を賭けて出てくる一方、地方の中小企業から様々な改造EVビジネスが出始めている。

**課題** 情報の共有・共通化ができておらず、各社が孤立した中で取組みを進める。

未来の地球環境のために早期に連帯し、  
発信力・実行力・成果最大の成果を上げていく必要性

### 市場分析

- ・経済産業省は2020年に新車の20-30%が電気自動車と予測。  
(2010年3月報告書より)
- ・国内では、三菱などの先進型EV発売に続き、トヨタも米ベンチャー(テスラ)とのEV提携を発表。
- ・世界市場では、特に中国の取組みに注目する必要がある。
- ・中古自動車を電気自動車に改造するビジネスも国内外で増加しているが、いずれも規模が小さく、また補助金などの制度がなく市場からの取り残されている状況。
- ・次に買う車で、電気自動車の購入意向がある層は約70%。  
改造EVの購入意向は約53%といずれも高い。  
(インターネット調査より)

## 電気自動車普及協議会のビジョン

**未来の子ども達に、美しい地球を残すために**



### 電気自動車の普及のために

- ・EV関連の事業や研究、普及活動を行う事業者、研究機関、各種団体をネットワークでつなぐことによって情報の共有
- ・個々に行われているコンバージョンEV事業の活動を支援
- ・既存の自動車メーカーのさらなる発展のためにEV戦略の実現化
- ・電気自動車を受け入れる社会の成熟のために、各地で取り組まれている電気自動車普及活動のサポートや政策提言

## 活動戦略(plan)

一般の生活者が、3年以内に電気自動車を現実的に検討・購入して街中で乗ることができる状態を目指してまいります。

電気自動車ビジネスを本気で志す団体や企業そして個人を協議会が中心となり連帯して、大きな実行力を伴う組織を目指します。

- 2010年
- ・協議会発足。メッセージを世界に発信して、広く仲間を募る。
  - ・年度前半に日本国内で足場を固め、後半に海外を募集開始



- 数年後
- ・参加社のEV販売や技術の共有化、各種サポートを実施。
  - ・マイクロインベストメント実践開始
  - ・海外での仲間づくりの展開を開始

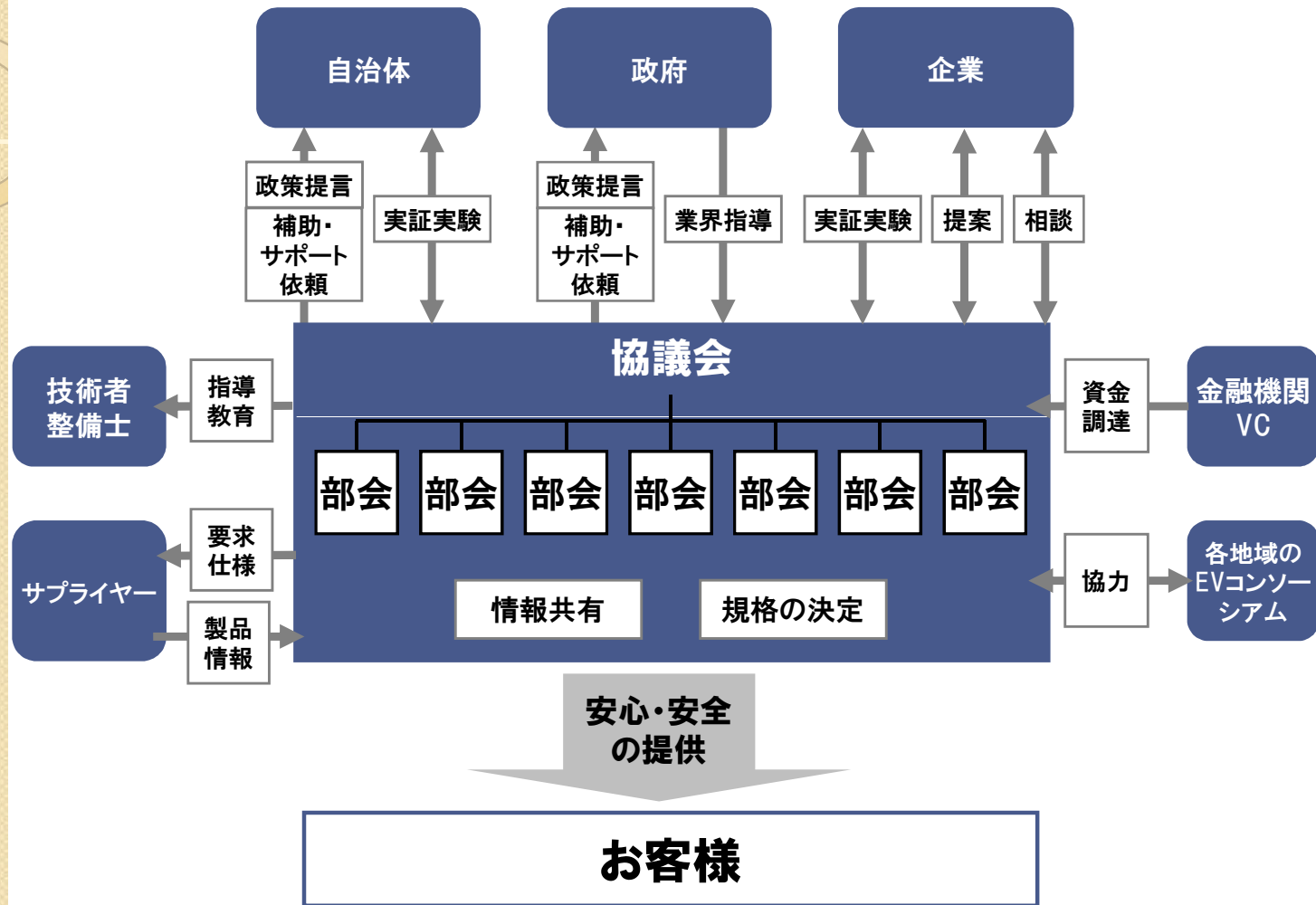
## 活動内容(do)

下記7つの作業部会を運営する。各部会の代表は幹事が務める。

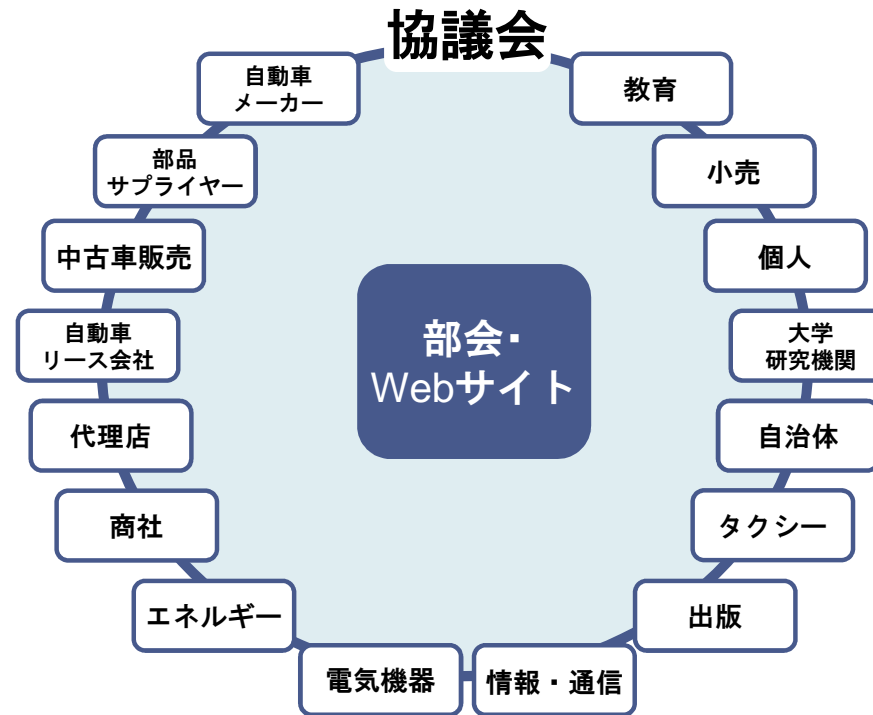
### ★初年度★

- 1.情報共有:産官学が連携するためのコミュニティを構築し、情報の高付加価値化を生み出していく。
- 2.規格の提唱・標準化の推進:協議会が提唱する水準を設け、業界の信頼性・安全性の向上に貢献する。
- 3.技術教育:自動車技術者や整備士をはじめとするEV関係者への、教育機関や企業などでの教育活動(講師派遣、指導、講義、セミナー、研修の提供など)。
- 4.政策提言:政府、自治体、企業への働きかけを行う。
- 5.実証実験:自治体・企業と連携し、電気自動車のある生活・街づくりを行う。
- 6.資金調達:金融機関やベンチャーキャピタルと連携して、電気自動車事業に投資を行なう企業や新規参入する事業者への支援を行う。
- 7.共同購入・販売:参加者のニーズをまとめ、品質とコストダウンを両立した部品など一定のロット購入や各社の購買の効率化を図る。

## 活動内容概略



## 会員のメリット



業界の垣根を越えたシナジーを生み、会員各社の相互メリットを促進する

- ・他社、他団体の最新情報共有
- ・活動内容の受発信
- ・商品の(共同)購入、販売、利用
- ・技術、製品の(共同)研究、開発

## スケジュール

項目	2010年度	2011年度	2012年度
協議会運営 ・事務局	運営開始 年度内に100社参加	運営安定化 300社参加	500社参加
活動1 情報共有	Web運用開始 参加者満足度80%	Web運用安定化	Web登録者1,500名
活動2 規格の標準化	基礎調査完了	基準提唱	基準適用社が100社超
活動3 技術指導	技術教育体系まとめ セミナー実施	オリジナルプログラム セミナー実施	セミナー参加者 3,000名達成
活動4 政策提言	政策提言まとめ		提言内容の採用
活動5 実証実験	2地域での実証実験開始		実験結果の社会還元
活動6 資金調達	マッチング機会創出	マイクロインベスト メント方式検討	戦略的支援ファンド 創出
活動7 共同購入・販売	意向調査完了		共同購入・販売実現



## 協議会体制(敬称略)

会長: ふくたけ そういちろう 福武 総一郎(ベネッセホールディングス取締役会長)  
【会長として協議会を統括】

代表幹事: なかしま とくし 中島 徳至(ゼロスポーツ取締役社長)  
【協議会を代表し、実際に協議会の業務執行内容及び方針を統括】

幹事:  
たじま のぶひろ 田嶋 伸博(タジマモーターコーポレーション会長)  
ふじわら ひろし 藤原 洋(ナノオプトニクス・エナジー社長)  
 【協議会の業務を執行】

事務局: 椎木・寺田

参加社

作業部会



★参加費: 正会員・・・1口10万円/年(自動継続)  
 賛助会員・・・1口1万円/年(自動継続)

**アドバイザー**  
 【知識・技術・経験・人脈・ノウハウを元に、普及活動がスムーズに展開できるようサポート】

- たてうち ただし 館内 端(自動車評論家)
- くさか こうへい 草加 浩平(東京大学工学系研究科特任教授)
- むらさわ よしひさ 村沢 義久(東京大学総長室アドバイザー)
- すずき たかひろ 鈴木 高宏(長崎県産業労働部政策監 EV&ITS推進担当)

今後、学術・経済界の人材に参加を募っていく予定

監査理事  
きむら ただあき 木村 忠昭(公認会計士)

当初は任意団体で発足